

NHK ラジオ講座¹⁾を活用する大学生の 継続的な語学学習法

鎌倉 義士

abstract

Many Japanese university students struggle to maintain their language proficiency during long holidays from school. This may be due to a lack of opportunities for continuous language learning outside of the classroom. To address this issue, this paper proposes the use of NHK radio language programs as an effective and convenient way for university students to continue improving their language skills. These programs have been designed to cater to learners of different levels and learning styles, and offer a variety of engaging content to facilitate the continual development of language proficiency. NHK radio language programs offer a valuable resource for university students to maintain and improve their language proficiency outside of the classroom. This paper will explore the effectiveness of these programs, provide examples of their benefits, and offer tips for incorporating them into a daily routine.

Keywords: NHK radio programme, language learning for university students, autonomous learners, multimedia

1. はじめに

「大学在学中で最も英語が上手であったのは3年生時であって、就職活動後の卒業時ではない」、「夏休み後、それまで学んでいたフランス語を学生が忘れてしまった」。このような意見を同僚の教員から聞いたことがある。どうやら大学生は授業を離れると英語やその他の言語の語学学習を止めてしまうようである。大学生にとって継続的な語学学習は難しいので

あろうか。その対策としてNHK ラジオ講座での学習を推薦したい。学生の通学時間にNHK ラジオ講座を聴く、そして学期間の長期休暇中にもNHK ラジオ講座を聴き学ぶことが、大学生の継続的な語学学習に最適な方法であると主張したい。

NHK ラジオ講座は、日本国内で最も歴史があり現存するマルチメディア教育であり、マルチメディア教材である。インターネットやスマートフォンの出現後も最新メディアに対応しながら、各言語の研究者がラジオを通じて授業を配信している。テキスト代以外は無料で使用でき、尚且つ授業内容を保証できる語学学習法を薦めない手はない。本論文は、NHK ラジオ講座の歴史と研究を概観した後、愛知大学学生を対象にしたアンケートとビジネス雑誌のテキスト分析から大学生と卒業後の仕事の場で必要とされる語学力を満たす語学学習法を探る。最後に、具体的なNHK ラジオ講座の学習法と活用法を提示する。

2. NHK ラジオ講座の歴史

NHK ラジオ講座は、日本国内でラジオ放送が始まって8日後に始まった最も古いラジオ番組のひとつである。1925年に最初のラジオ講座『英語講座』が開始された(宇治橋 2021)。この番組は後に『基礎英語講座』『基礎英語』と名を変えて現在でも放送されている。戦後、1945年9月には『英語会話』が連合軍占領下にて、英語の習得を薦める番組として始まった。2021年に放送されたテレビドラマ『カムカムエヴリバディ』では100年の間に母・娘・孫の三代でNHK ラジオ講座を聴いて英語を学ぶ姿が描かれた。平川唯一が講師を務めた『英語会話』はNHK ラジオでの放送後、民間放送のラジオで「カムカム英語」の名で放送された(平川 2021)。戦後10年近く続いたこの放送の人气が、ラジオ講座で英語を学ぶ方法を国民に周知させた。『英語講座』から始まったNHK ラジオ英語講座は講座名を変更しながら2023年現在13講座にまで増え、幅広いレベルの英語学習者の需要に対応できる番組の種類を揃えている。

NHK ラジオ講座は時代の変化に合わせて発展し続けている。代表的な例では、新しいメディアへの対応である。古くは1925年に開始したラジオ講座と1953年開始のテレビ講座との2つのメディアにて語学講座を放送していたが、2007年にNHK 語学講座「ゴガクル」ウェブサイトを開示し、2014年には「NHK ゴガク」ウェブサイトを開始した。これらウェブサイトの活用によってラジオだけでなく、インターネット上での学習が可能となり、放送番組を繰り返し専用サイトで視聴できる環境が整った。2011年に「NHK ネットラジオ らじる★らじる(以下「らじる★らじる」)」と2016年に公式アプリ「NHK ゴガク」を配信し、ラジオでなくてもスマートフォンのアプリからNHK ラジオ講座が聴取できるようになった。

NHK ラジオ講座は、積極的に最新の言語教育研究の成果を取り入れている。2011年に

「英語グランドデザイン」を設計し、複数あるラジオ英語講座を初級から上級まで段階的に学習できるよう、放送番組をCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）に基づき分類した。日本人学習者の状況を鑑み、最初歩の「A0」を加えて、初級「A1」から最上級「C2」までの7段階のレベルを目指す学習にどのNHKラジオ講座が適切なのかを明示した。ラジオ講座の短所ともいえる一方的に聴くのみを受動的な学習（岡村1989）にならないよう、どのようなことが外国語で表現し実現することができるのか基準を授けたCEFRと類似した上中級者への指標だけでなく、小中学生という最初歩の学習者の参考となるA1レベル前の指標を取れ入れている。この取り組みは、日本人英語学習者の初級者からの英語到達度指標を設定したCEFR-JのPre-A1レベル（投野2013）を参考にしたと思われる。このようにNHKラジオ講座は、国内外の言語教育における最新の知見を授業構成に反映させている。

NHKラジオ講座は英語教育だけに留まらない。ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語・イタリア語が、英語講座開始と同時期の1952年から1956年に始まり、2023年では韓国朝鮮語²⁾・ポルトガル語・アラビア語と10の異なる言語の入門編と応用編を放送している。いずれの番組でも各言語の研究者が講師として半年間の番組の構成とテキスト作成に携わり、体系的な指導が行われている（荒川1991；岡村1989）。

3. NHKラジオ講座関連研究

NHKラジオ講座について分析した研究はいくつか存在する。NHK放送文化研究所メディア研究部が『放送研究と調査』誌上で発表するアンケート結果の分析と、言語指導する研究者がNHKラジオ講座の内容・テキスト・利用状況を分析したものと大別される。

NHK放送文化研究所メディア研究部によるアンケート分析で代表的な論文は、2021年度「語学学習でのメディア利用に関する調査」から語学学習への関心とNHKラジオ講座を含めたメディアの言語学習での利用についてのものである（宇治橋2022a, 2022b）。この二編からなる調査結果は、ラジオ講座を放送するラジオ第2放送90周年を機に、インターネット調査とオンライングループインタビューを実施した結果である。NHK放送文化研究所はそれまでに1984年、1985年、1994年に2回、2008年と計5回大規模なアンケートを行い、この2021年度のアンケートが現時点では最新のものとなる。語学学習への関与度を測るために、調査対象者を「学習興味」「現在学習」「自発経験」の有無に分類し、分類されたグループ内で全てに有りとする学習者の語学学習に積極的な姿勢だけでなく、語学学習に興味のない群がYouTubeやSNSでの学習に関心を示している点を明らかにした。さらに、宇治橋（2022b）では学生層の「NHKラジオらじる★らじる」アプリの認知度が15%であることと、「学校の先生や学校」を通じてNHKラジオ講座を認知していることを示した。宇治橋

(2022a, 2022b) のアンケートは対象者がNHKの調査に積極的に回答をした学習者が中心でありながらも、現在の語学学習者の実情を正確に描写した調査と評価できる。NHKラジオ講座だけを対象とする調査ではないが、宇治橋・小平(2018)は2017年度「高校教師のメディア利用と意識に関する調査」の結果報告をしており、外国語授業内でラジオやCDなどの音声教材の利用が多い傾向から、NHKラジオ講座を知るきっかけとして英語授業内で教師が利用することが高い可能性を示唆している。この英語授業内で教員がNHKラジオ講座を薦める傾向は、後に紹介する高垣(2013)と山田(1996)でも確認されている。原(1995)は1994年に実施したラジオ講座テキスト綴じ込みハガキを用いたアンケート結果から、NHK語学講座番組の利用状況を明示した。その結果から、ラジオ英語講座は10～20代の若年層と女性の利用が多いことを示す一方、1985年アンケート調査と比較して高年層の利用者が増加している傾向が見える。そして、NHKラジオ講座を生活のリズムの中に組み込んで学習を継続する長期利用者が回答者の半数を占めたと報告されている。

対して、研究者による分析においては、角元(2002)が1961年から2000年度までのNHKラジオ『英語会話』³⁾講座テキストに投稿された「読書欄」の内容分析を行い、聴取者の利用目的を明らかにした。分析した40年近くの間学習者が受験や仕事のための実利目的よりも旅行・観光やコミュニケーションのための学習行動を目的に学習することを指摘した。この結果より、NHK講座は言語学習を行う教室や学外での勉強に積極的に利用されている点が明らかになった。高垣(2013)は、NHKラジオ講座テキスト『基礎英語1～3』合計36冊を3人の評価者でテキスト評価の基準に従い評価を行った結果、NHKラジオ講座テキストは「パターンの質と量の充実度」と「言語の自然さ」に優れた教材であると高く評価された。この結果から、NHKラジオ講座は質が良く、実際に日常的に使用される英語を用いた教材と言える。山田(1996)はNHKラジオ講座の構成を分析し、各課で提示される音声もしくはスキットが5回前後繰り返される点を指摘し、学校での語学の授業でも学生や生徒が数多く音に触れる機会を増やす重要性を説いた。このようにNHKラジオ講座は語学教員にとっても参考になる授業を提供している。

4. NHKラジオ講座に関する大学生を対象としたアンケート

NHKラジオ講座の利用実態に関しては、これまでいくつかの調査が行われてきた。代表的なのは、NHKラジオ『英語会話』講座のテキスト投書欄を内容分析の後、学習者の学習目的を分類整理した研究(角元2002)をはじめ、NHK放送文化研究所メディア研究部が2021年度「語学学習でのメディア利用に関する調査」の結果を纏めた報告がある(宇治橋2022a, 2022b)。但し、これらの研究と報告はNHKラジオ講座を利用する大学生以外にも含

む利用者を対象としており、大学生のみを対象とした調査ではない。このアンケートの特性は、大学生がNHK ラジオ講座を有効に活用する目的のため、大学生の利用実態を調査した点にある。しかしながら、本アンケートの対象は英語と国際文化に関心が高い愛知大学国際コミュニケーション学部の学生であり、他学部に所属する大学生よりはNHK ラジオ講座を含む言語学習に関心が高い大学生であることが予測される。前述の角元（2002）の研究と宇治橋（2022a, 2022b）も本研究と同様にNHK テキストの読書欄やオンライン調査⁴⁾に回答する積極的な語学学習者が対象であることから、同様に本研究アンケート対象者の偏りは少なく、NHK ラジオ講座を利用する大学生の調査の対象者として相応しいものである。

2023年1月11日愛知大学国際コミュニケーション学部『言語文化論』授業内でグループフォームを使用し、NHK ラジオ講座の認知度と使用状況に関してアンケートを実施した。授業登録者数146人に対して、有効回答数138（86%）と回答率の高いアンケートとなった。質問数は6つで、以下の内容となる。

- 1) NHK ラジオ講座を知っていますか？ 名前を聞いたことがありますか？
- 2) どのようにNHK ラジオ講座の存在を知りましたか？
- 3) NHK ラジオ講座を利用したことがある方は、どの言語の講座ですか？
- 4) NHK ラジオ講座が「らじる★らじる」や「NHK ゴガク」というスマートフォンのアプリで利用できることを知っていましたか？
- 5) NHK ラジオ講座が「らじる★らじる」や「NHK ゴガク」のアプリで無料で利用できるならば、利用してみたいですか？
- 6) あなたが大学の授業以外で、英語やその他の言語を勉強する方法を教えてください。

「NHK ラジオ講座を利用している大学生はあまりいないだろう」と予測の元に、上記アンケート質問を考えた。質問1) ではNHK ラジオ講座の存在を知っているかを調査した。その結果は、「知っている」54.3%（回答数75）⁵⁾「知らない」45.7%（63）となった。半数より若干多い学生がNHK ラジオ講座の存在を知っていた。これを多いと解釈するか、それとも少ないと捉えるかは意見が分かれるだろう。私個人の予測よりは大学生のNHK ラジオ講座の認知度は高いと感じた。角元（2002）と宇治橋（2022a, 2022b）のアンケート結果がNHK ラジオ講座を利用している人からの回答であるため、本研究のような大学生の利用実態は判明しなかった。まずNHK ラジオ講座の存在を大学生の半数に認知させる必要があることが明らかになった結果である。

質問2) は質問1) で「知っている」と回答した者のみが回答を行った。その結果は、「先生による紹介」58.7%（44）「父親、母親から」12.0%（9）であった。先生・父親・母

親・家族といった身近な年長者から NHK ラジオ講座を紹介され薦められた大学生が、NHK ラジオ講座の存在を知る学生の中で70%以上いる結果となる。この事実から、NHK ラジオ講座は大学生の親や教員の世代に効果的な学習法と認知され、次世代の若者に紹介されている実態が浮かび上がる。質問1)のアンケート結果から大学生の半数近くがNHK ラジオ講座の存在を知らないならば、大学教員や語学教員がNHK ラジオ講座の有用性を伝えていく必要があるのではないだろうか。本論文の目的は、その大学生への認知度を高めることにある。「先生や親が紹介してくれた」以外の回答で興味深いのは、「母が聞いている」「祖父が聴いていたことがあり、英語の勉強として勧められた」という家族が利用者であり学習者のモデルであったことや、「ネットなどを使って自分で調べた」「新聞のラジオ番組欄」「テレビのNHKの番組内」「NHKの宣伝」とNHKからの発信にて周知した場合もあった。

質問3)は「NHK ラジオ講座では英語番組の利用者が大半であろう」と予測してアンケートを実施した。結果は、「英語」83.8% (83)「中国語」7.1% (7)「韓国語」5.1% (5)「ドイツ語」3.0% (3)「フランス語」1.0% (1)であり、利用者99人中でその8割以上がNHK ラジオ英語講座を受講した実態が分かった。この結果は、宇治橋 (2022a) によるNHK 語学サイト登録者と閲覧者を対象としたアンケート結果においても、英語学習者が8割近くいた事実と一致する。英語以外の学習者が少ないと考えるか、もしくは英語以外のNHK ラジオ語学講座の利用を促進できると捉えるかは難しいところである。後の章にて英語以外の語学講座の利用を大学生に薦める方法を提示したい。

学内を見ても、スマートフォンを肌身話さず持ち歩く学生が多い。第2章で述べたように、NHKは2000年代よりインターネット展開を語学講座にも広げている。その一環として、NHK ラジオ講座がスマートフォンでも聴けるようになっている。その事実を大学生が周知しているか調べるため、質問4)「NHK ラジオ講座が『らじる★らじる』や『NHK ゴガク』というスマートフォンのアプリで利用できることを知っていましたか?」を作成した。その結果は、「知っていた」21.0% (29)「知らなかった」79.0% (109)と8割近くの大学生がNHK ラジオ講座をスマートフォンで利用できることを知らなかった。言い換えれば、80%近くの学生がNHK ラジオ講座をスマートフォンで利用する可能性があるとも考えられる。その検証として質問5)の回答が参考となる。結果は、「利用してみたい」81.2% (112)「利用しなくてよい」18.8% (26)のように、質問4)「知らなかった」79.0%が逆転するような形で8割を超える学生が「利用したい」と回答している。この結果は、宇治橋 (2022a: 30-31) の調査結果「無料または高い費用をかけずに始められる」ことがNHK ラジオ講座の魅力という学生層の傾向と一致する。つまり、スマートフォンで『らじる★らじる』『NHK ゴガク』が無料で利用できると知れば、それを利用して勉強する可能性が高いという結論に至る。だからこそ、学生にNHK ラジオ講座の存在・有用性・無料での利用を訴えかければ、

学外での語学学習機会が増加し、語学力の増強に貢献できると主張したい。

質問6)では、学生がNHK ラジオ講座以外にどのような方法で英語やその他の言語を授業外で学んでいるのかを調べる目的で調べた。語学の参考書や映画・ドラマを見るという意見の他に、際立ったのがYouTubeやTED talksを視聴したり、duolingoというアプリを利用したりするとの回答があった。これは本論文で授業外でのNHK ラジオ講座を用いる学習を薦める一方で、同様に時間を有効に使うスマートフォンやインターネット上での新しいメディアを活用した学習法といえる。今後、このようなスマートフォンを利用した学習は広がっていくだろう。このスマートフォンを用いた学習法は本論文の分析対象外となる。今後、別稿にて分析を進めるべき課題である。

5. NHK ラジオ講座の活用について雑誌記事を対象とする内容分析

NHK ラジオ講座は学生だけでなく、幅広い年代層に利用されている。中でも、大学卒業後のビジネスマンや社会人が語学力をつける教材としてNHK ラジオ講座を活用する印象がある。この仮説を検証するべく、愛知大学図書館で利用可能な雑誌アーカイブから『東洋経済』『日経 TRENDY』『日経 WOMAN』『日経おとなの OFF』『日経ソフトウェア』『日経パソコン』『日経ビジネスアソシエ』の計8雑誌より「NHK ラジオ講座」を含む記事を抽出し、雑誌記事にて使用頻度が高い語句があるか、そしてその高頻度な語句に傾向があるかを検証した。対象雑誌の出版年は1989年から2023年で抽出された文は延べ90のテキストがあり、分析にはKH Coder (樋口 2020) を使用した。

図1は上記雑誌から抽出された語句を共起クラスターで表示した図である。この図内で「毎日」「使う」「利用」とそれぞれの語を含む句を想像させる。具体的にそれぞれの文例を見ると、(1)にあるよう毎日の使用による習慣づけやNHK ラジオ講座の放送を繰り返し聞いて学ぶ重要性を示している。図2の対応分析の結果は、「繰り返す」の句が『日経 WOMAN』『日経ソフトウェア』のビジネス誌内にて特徴的に高頻度で使用されている傾向があり、図3のコンコordananceラインに見るように、「繰り返し聞く」ことを『日経 WOMAN』記事では薦めている。NHK ラジオ講座が毎日続けて聞く習慣化に向く理由を(2)では挙げられる一方で、継続的なNHK ラジオ講座での学習の難しさも(3)では見られる。その問題に対するNHK ラジオ講座の制作者側の工夫を(4)で説明されている。

- (1) NHK や衛星放送の英語ニュース、ラジオ講座などを使い毎日聞く習慣をつける (東洋経済 2022)
- (2) NHK ラジオ英語講座が習慣化に向く理由 1日15分×週5日で勉強のリズムができ

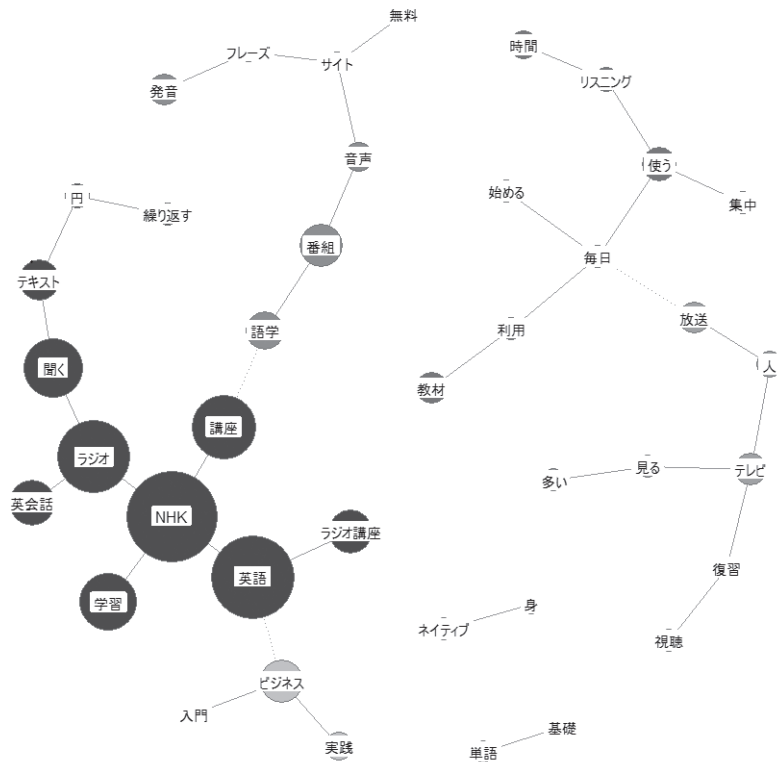


図1 雑誌記事共起クラスター

る 音声と英文がセットで効率よく学べる 手頃な投資でモチベーションを維持できる (日経 WOMAN 2022)

- (3) 「ネイティブスピーカーと話せるようになりたい」と思い、NHKの「ラジオ英会話」を毎朝聞いたり、という具合です。これだけいろいろと勉強したのに、「英語力が伸びている」という実感をなかなか得られず、当時は本当につらかった (日経ビジネスアソシエ 2015)
- (4) 確かに強制力がない独学だとやる気をなくすと続きません。……NHKさんもその辺を察していて、短いスパンの講座を用意したり、飽きさせない内容にしたりと工夫を凝らしています。昔よりずっと挫折しにくくなっていると思いますよ (日経ビジネスアソシエ 2012)

このように大学卒業後の語学学習者にも NHK ラジオ講座での継続的な学習をビジネス誌では薦めている。さらに、その質の高さにも定評があることがこの分析で明らかになった。

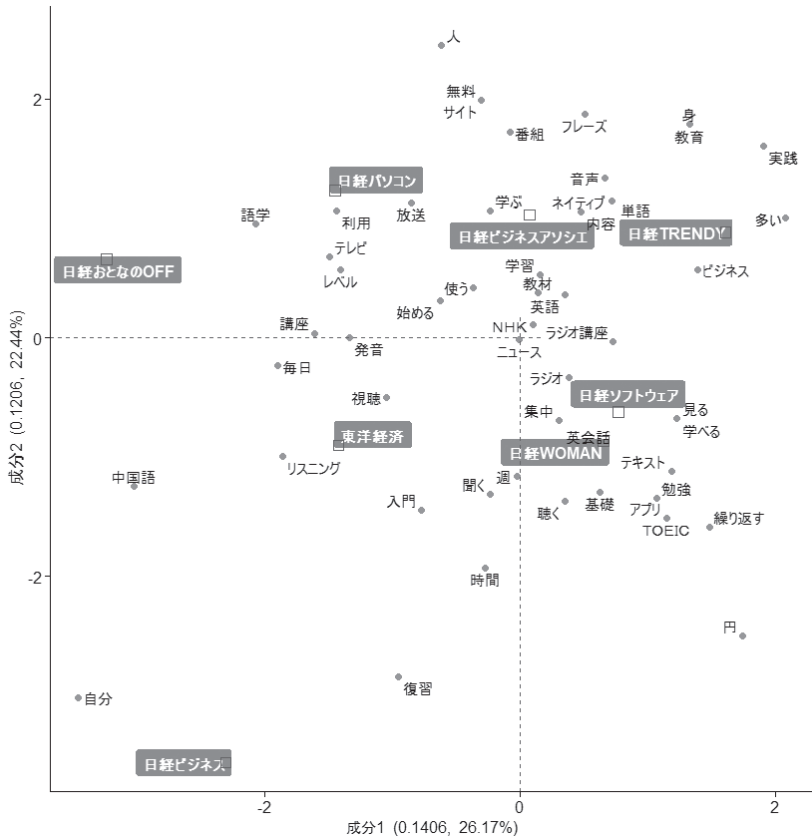


図2 雑誌別記事語句対応分析

で聞いているような感じで、二度勉強になります。これを繰り返して聞いて音読するうちに、TOEIC785点から915点に！◇日経WOMAN
 . TOEIC785点から915点に！◇NHKラジオを録音し繰り返して聴く。「定番ですが、やはりNHKのラジオ講座は最強です
 講座で英語に触れる時間を増やす。「1回分を何度も繰り返して聞くのもいいですよ」。◇ラジオ講座で英語の時間を増や
 る★らじる」を活用し、「週1回30分の放送を週3、4回繰り返して聞き、ネイティブ講師の発音を頭にたたき込みます」。◇日経WOMAN

図3 雑誌記事「繰り返し聞く」コンコーダンスライン

6. 大学生に薦める NHK ラジオ講座の活用法

本章では、私が最も主張したい点を説明する。大学生が授業外での言語学習には、ぜひNHK ラジオ講座を活用してもらいたい。これまでで述べられたように、NHK ラジオ講座は各言語専門の研究者が内容を精査した上で、段階的に上達できるよう授業計画が構成されている。さらに、長年培った技術と経験を元に最新の言語学習方法を取り入れている素晴らしい教材である。問題は、大学生にとってラジオが慣れ親しんだメディアではなく、ラジオ放

送時間に規則的に聴取できるのかという点であるが、これもスマートフォンアプリ『らじる★らじる』や『NHK ゴガク』等の新たなメディアでのサービスによって、時間と場所というラジオ番組の制約を克服できる。以下に、その詳細と NHK ラジオ講座の活用法を述べる。

6.1 私の NHK ラジオ講座活用法

最初に、私自身がどのように NHK ラジオ講座を利用しているか提示する。この方法は大学に通学する学生にも有用な方法であると思われる。私は週末を除いて毎日朝 1 時間近く NHK ラジオ講座を聴き、英語や他の言語を学んでいる。これは学生時代から継続する学習であり、既に 30 年以上 NHK ラジオ講座で学んだことになる。極論を言えば、NHK ラジオ講座だけである程度の語学力が維持できる自信がある。私がこれまで学び、自身で実証できた事実から NHK ラジオ講座での学習を学生に薦めたい。

私は午前 8 時に『まいにちハングル講座』を受講する。その後、初級後半を放送する月から続く 8 時 15 分からの『まいにち中国語』を聴くこともある。私が最も重要視する番組は 8 時 30 分から『英会話タイムトライアル』である。この番組で英語のスピーキング力を維持している。後の節で解説するが、この番組はネイティブスピーカーによる会話の発想がよく理解でき、自然な英語に近づけるためには欠かせない内容を提供している。その後、出勤の準備をした後、通勤中には 9 時 5 分から『ボキャブライダー』、9 時 10 分に『エンジョイ・シンプル・イングリッシュ』、9 時 15 分から『ラジオビジネス英語』を聴いて、最後に 9 時 30 分から『ニュースで学ぶ「現代英語」』を聴いて終わる。合計 50 分の NHK ラジオ講座が私の英語力維持に役立っている。これに加えて木曜と金曜には、午前 7 時 15 分から『まいにちスペイン語』と『まいにちフランス語』の応用編を聴く。

これら全ての番組を学生に聴くことは強要しない。しかし、この中から最低英語の 2 番組を選び、毎日 30 分近くは通学中の電車で聴いて学んで欲しい。この積み重ねだけで、卒業するまでの 4 年間に授業外で英語に触れる時間は格段に異なる。大学までの通学時間にスマートフォンで SNS をチェックする時間を 30 分、いや 15 分でも NHK ラジオ講座を聴く時間に割いて欲しい。

私は『ボキャブライダー』、『エンジョイ・シンプル・イングリッシュ』、『ラジオビジネス英語』、『ニュースで学ぶ「現代英語」』の 4 番組を連続聴取することを薦める。なぜなら、大学 2 限目講義前の通学中に聴くのに適した午前 9 時 5 分から 9 時 45 分まで放送しているからである。大学の授業後に疲れて続くアルバイトの時間を気にしながら午後に聴くよりも、朝に頭がスッキリした状態で英語に触れて調子を整えて欲しい。可能であれば、スマートフォンアプリ『らじる★らじる』を利用して放送されている時刻に聴くことを薦めたいが、『らじる★らじる』の番組表から放送後もストリーミングでどの時間でも聴取すること

が可能である。放送時間帯より早い1限授業に出席する日は、前日の放送を通学時間中に聴くことができる。『らじる★らじる』アプリの使用により放送時間帯に縛られることなく、スマートフォンという小さな機器によってどの場所でも英語学習が可能となる。通勤電車内だけでなく駅から校舎へ移動時でも、外部音取り込み機能の利用もしくは片耳だけで交通に気をつけながら聴くことも可能である。

6.2 お薦めする NHK ラジオ英語講座番組

『英会話タイムトライアル』

私が最もお薦めする NHK ラジオ講座である。「対話カラオケ」と名付けた練習で、ラジオ講座から話しかけられる英語に對話できることを目標とする。同時に、この講座は SPR と「瞬発力」各文字の頭文字を取って、英語で表現したいことに瞬発力を持って対応できることを目指す。この講座以前にも『ラジオ英会話』『英会話入門』などで会話力の育成を目指した講座があったが、英語の対話文やスキットから英会話表現を学ぶしかなかった。対して、この『英会話タイムトライアル』では日本語で表現内容を提示され、それを英語で表現する一問一答のような形式である。これによって、自分が知らなかった表現が学べ、更に英語として自然な表現を学ぶことが可能となる。

講師のスティーブ・ソレイシィ氏が日本語に堪能なため、アメリカ人ネイティブスピーカーとして英会話表現の微妙なニュアンスを日本語で説明してくれる。この指導内容は他のどの番組にも無い利点であり、長年英語を研究して指導する私でも新たに気付かされることが多く、授業内容に活用している。アメリカ人話者以外にも、イギリス人やオーストラリア人をゲストとして迎え、多様な英語を提示するよう試みている番組構成である。如何せんスティーブ・ソレイシィ氏が主の講師であるため、説明される内容がアメリカ人ネイティブスピーカーもしくはソレイシィ氏個人の言語感覚なのか判断できない。データが示す傾向によって個人差や地域差を解消するコーパス言語学の分析とは対極をなす主観的な説明かもしれないが、ソレイシィ氏が日本語の造詣に深いこともありバランスが取れた指導であると感じる。

月火水の3日に一問一答形式で英語表現を学び、その3課で学んだ内容を活かして金曜日の対話カラオケに挑む。このインプットとアウトプットの授業構成が素晴らしい。木曜日の放送内容は未だ試行錯誤の段階にある。前年度は金曜日対話カラオケの簡易版を木曜日に練習したが、2023年度は Express・Create・Reply と三段階の表現練習を金曜日対話カラオケの前の学習として提示している。

『ボキャブライダー』

この講座は毎回テーマに沿った4つの英単語と例文を紹介する番組である。5分と短いこともあり、隙間時間に聴いて学ぶのに適している。他のNHKラジオ講座のようにテキストは出版されていないが、その代わりに『らじる★らじる』アプリに表示される番組情報内で、その日に学ぶ4つの単語とテーマが記載される。2023年3月9日を例に挙げれば「【復興】recovery, long-term, rebuild, resilient」が提示され、類義語の意味がどのように異なり、そして文中でどのように使用されるか分かりやすく、かつ楽しく紹介している。スマートフォンで『NHK ゴガク』アプリを利用すれば、その日に学んだ単語を「基本クイズ」と「応用クイズ」で確認できる。このように聴いて学んだ内容をラジオではない他のメディアで確認できるよう展開するのが、NHKラジオ講座の強みである。

この講座の特徴は、番組進行と講師を務めるマックスウェル・パワーズ氏の力量によるものが大きい。父がアメリカ人、母が日本人というバイリンガルの特性を活かして、『英会話タイムトライアル』講師ステイブ・ソレイシィ氏と同様に、日本人英語教員には説明が難しい単語の細やかなニュアンスと使用法を説明してくれる。時には、簡潔に英語の発音のコツも教える。番組アシスタントである女性タレントは人気上昇前の女優が出演するので、若い男性学習者を惹きつけるだろう。唯一の心配は、『英会話タイムトライアル』と同じく、内容が講師の資質に大きく依存するため、講師の変更などによって長く続く番組になり得るかという点だけである。

『エンジョイ・シンプル・イングリッシュ』

リスニングに特化した講座である。月曜から金曜までの5日間で、異なるテーマの5分間の英語ストーリーを聞かせてくれる。2022年度下期（2022年10月から2023年3月）は2022年度上期の再放送であり、以下の曜日ごとのストーリーである。月曜「オリジナル・ショート・ストーリー」火曜「マリーのハテナ日記 Marie the Scientist」水曜「世界の偉人伝 Heroes and Giants」木曜「世界の昔話・童話 Folklore and Fairy tales」金曜「シャーロック・ホームズの世界 The Amazing Sherlock Holmes」とテーマは多岐に渡り、毎日飽きることなく聴取できる。ストーリーに使用される語彙で難しいものは少なく、中学生修了程度で英検3級の力があれば十分に聴いて理解できる。学生でTOEICリスニングパート後半での長いリスニングを苦手とするものが多い。この5分間のストーリーを毎日聴くことで、リスニングの集中力と体力を育成して欲しい。

『ラジオビジネス英語』

NHKラジオ講座のビジネス英語講師といえば、杉田敏氏である。1987年から講座名を変

えながらも2020年まで30年以上NHKラジオ講座のビジネス英語の授業を担当していた。2021年度からは柴田真一氏が講師を務め、それまでのNHKラジオ講座ビジネス英語の良い点を踏襲しながら、新たに興味を惹く内容でビジネス英語の講座を提供している。放送構成は、月曜火曜で対話のスキットを用いてビジネス英語を学び、その月曜火曜の内容を基に水曜は英文メール、木曜金曜は著名人の英語インタビューを聴き、英語力と同時に知識を身につけようとする目標が明確である。特に、対話の内容を踏まえた上で国際ビジネスで主流である英文メールのやり取りを重視する点は、これまでにない『ラジオビジネス英語』の優れた点である。

大学生にとってこの『ラジオビジネス英語』をテキスト無しで受講するのは難しい。お薦めするのは手元にテキストを置いて単語と英文を確認しながら勉強することである。通学中や移動中にテキストを見て確認することは困難であるが、現在ではNHKラジオ講座テキストをスマートフォンで閲覧することが可能である。NHKテキスト電子版として各種電子書籍ストアから購入し、自分のスマートフォンにダウンロードして読むことができる。印刷刊行されたテキストよりは若干安価に購入できるが、学生にとって毎月定期購読できる値段かという判断に困る。基本的に無料で視聴できることから、YouTubeやTEDトークで英語を学ぶことが大学生に増えている学習法であれば、NHK出版にはせめて対話文だけでもNHKラジオ講座のホームページに掲載することで、英語学習に少しでも節約したい学習者を援助して欲しい。対話文以外の説明や応用の情報をテキストに記載し、より熱心な学習者をテキスト購入へ導く流れを作ることで、大学生学習者がNHKラジオ講座を利用する際の敷居が低くなるのではないだろうか。

大学生にとって経験したことがビジネスの状況を想像することが難しい。これは常々TOEIC対策の授業を私が展開する時に感じる疑問である。もちろん、TOEICのリスニングパートで流れる会社オフィスでの会話はそれほどビジネスの知識は必要ではないが、リーディングパートの書面・メール・手紙などはビジネスの慣習を知らなければ理解できない点がある。現場を知らない学生にビジネスの基礎を紹介し、その内容がどのようにTOEICの問題で取り上げられるのかを説明する講座が存在してもよい。

『ニュースで学ぶ「現代英語」』

私が最近『英会話タイムトライアル』と同様に重視しているNHKラジオ講座である。2018年開始『ニュースで英語術』と2017年開始『高校生からはじめる「現代英語」』から発展し、2022年から放送開始されている。NHK国際放送「NHKワールド」のニュースを使用し、英語技能を伸ばすだけでなく、最新事情も学べる講座となっている。このように講座用に作成されたスキットや対話でなく、生の英語であるニュースを教材とする点が良く、国際

放送を提供する NHK ならではの授業構成である。ニュース英語を扱うだけに語彙はかなり高度なものであるが、TOEIC や TOEFL で高得点をを目指す学生には是非ともお薦めしたい。

15分の番組構成も素晴らしい。本文のリスニング前に質問を提示することで、学習者の理解と集中を促す。そして、全文を丁寧に説明した後、「Today's Takeaway」で本文で使用された語に関する深い知識を提供する。このコーナーの説明は講座の各講師の得意分野がよく反映されており、音声を専門とする青山学院大学米山明日香氏は音声学の内容を易しく説明し、元ジャパントイムズ編集局長伊藤サム氏は長年の現場での経験からニュース英語の特徴を分かりやすく、そして翻訳家トム・ケイン氏が英語と日本語の違いを翻訳の観点から説明してくれる。どれも英語を専門として研究する私でも知らない知識が提供されるため、私自身の勉強にとっても役立っている。

私が最も評価するこのラジオ講座の練習が、Back-Translation Training と呼ばれる同時通訳されたような日本語の句が提示された後、英語に翻訳する練習である。通訳法のトレーニングとしては、日本語から英語へのサイトトランスレーションの一種といえるが、初見の日本語を英文へサイトトランスレーションをするのは学生でなくても難しい。この講座ではニュース本文中で和訳とその内容を確認し学んだ英文を日本語から英語に句単位で翻訳するのである。これは複雑な文法構成でできた文を理解し、そのような高度な文を自分で発信可能にする最適なトレーニングである。英検 1 級 2 次試験で課されるスピーチ対策として、内容があり、さらに構成も高度な英文を話せるように Back-Translation Training で練習して欲しい。

この NHK ラジオ講座『ニュースで学ぶ「現代英語」』はテキストを刊行していない。その代わりに、番組ウェブサイトが他の NHK ラジオ講座よりも格段に充実している。講座で扱う「NHK ワールド」のニュースを書き起こした英文がウェブサイトで確認できる。テキストを購入する必要が全くない。さらに、そのニュースの解説が本文中に織り込まれ、ニュースの英文和訳文と番組後半での解説も放送後ではあるが確認可能となる。いわば、この NHK ラジオ講座を聴かなくても、講座ウェブサイトを見るだけで番組の内容を完全に学習できる。ラジオ講座の 1 回だけの聴取でなく、その後の復習にもこのウェブサイトは有効に活用できる。現時点では、この『ニュースで学ぶ「現代英語」』が最も洗練された NHK ラジオ講座であると言える。

『ラジオ英会話』

私にとって NHK ラジオ英会話講座の講師は、『NHK ラジオ英会話』担当の大杉正明氏であり、『英会話入門』の遠山顕氏である。宇治橋 (2021) が指摘するように、NHK ラジオ講座で聞き慣れた講師に対して、ラジオパーソナリティーとして身近に感じ、ラジオならではの

の個人に語りかけるような口調から親近感を持つ。私も同様に、上記二名の講師に思い入れがあり、現在担当される大西泰斗氏の『ラジオ英会話』はどうにもテンポとノリが合わず、聴取していない。この『ラジオ英会話』は初中級者にこそ視聴してほしい。毎回ひとつの文法事項を取り上げ、その文法を会話の中で使って学ぶことを目標としている。中学高校の英語の授業で文法の学習に自信が無い学生にこそ、この『ラジオ英会話』は役立つ。

6.3 生活リズムに合わせた NHK ラジオ講座の活用

この節では多様な学生生活リズムに対しても、対応できるよう繰り返し放送している NHK ラジオ講座の利用時間を具体的に提示していく。継続的な語学学習を実現するには、運動と同じように生活の中に学習時間を組み込むことである。すなわち、毎日決まった時刻に学習する習慣を身につけることが継続的な学習を可能とする。以下に提示する時間帯にどうしても聴取できない場合は、『らじる★らじる』アプリのストーリーミングを利用して頂きたい。以下の各番組放送時間帯は2023年3月現在のものである。

【朝の通学40分+10分】

8:30-8:40 『英会話タイムトライアル』

9:05-9:10 『ボキャブライダー』

9:10-9:15 『エンジョイ・シンプル・イングリッシュ』

9:15-9:30 『ラジオビジネス英語』

9:30-9:45 『ニュースで学ぶ「現代英語」』

前述したように、これは私が実際に聴取している時間帯である。『英会話タイムトライアル』の後に25分間の空き時間があるが、私はこの時間を出勤準備に充てている。この流れは全ての学生に当てはまらないと考え9時5分から9時45分の聴取を前に薦めたが、可能であれば『英会話タイムトライアル』も含めて継続聴取して欲しい。この順番で番組を聴けば、段階的に英語の難易度が上がるバランスの良い番組の配置となっているからである。

まずは『英会話タイムトライアル』のスピーキングに特化した番組で口を慣らして、休憩の後『ボキャブライダー』と『エンジョイ・シンプル・イングリッシュ』で英語の基礎力となる語彙増強とリスニング能力を鍛えてほしい。その後の2番組『ラジオビジネス英語』と『ニュースで学ぶ「現代英語」』は上級者向けである。これらの講座で授業でも学ぶことが少ないビジネス英語や最新の時事英語を学び、更なる英語の知識と実力をつけて欲しい。

【就寝前に40分】

23:00-23:10 『英会話タイムトライアル』

23:10-23:15 『エンジョイ・シンプル・イングリッシュ』

23:20-23:35 『ラジオビジネス英語』

23:35-23:40 『ボキャブライダー』

私にはこの時間帯は遅すぎて継続できるか不安であるが、アルバイトがある学生にはこの遅い時間のほうが落ち着いて自宅で聞くことができるかもしれない。入浴しながらの聴取も可能な時間帯ではある。23時15分から23時20分に『みんなのうた』の放送を間に挟むため、その間に眠りに落ちてしまうのではないかと不安に思う。4番組の構成としては、私が聴取する朝の時間帯よりも若干レベルにばらつきがあるようにも思える。『ラジオビジネス英語』を除く、『英会話タイムトライアル』『エンジョイ・シンプル・イングリッシュ』『ボキャブライダー』はテキストを見なくても勉強しやすい授業内容ではある。落ち着かないかもしれないが、『ラジオビジネス英語』のテキストは入浴後に確認し、入浴しながらこれらの講座を聴く習慣をつけるのも良いかもしれない。

【朝食の前に起きてから30分】

6:30-6:45 『英会話タイムトライアル』

6:45-7:00 『ラジオ英会話』

これから英語の実力を伸ばしたい英語検定2級やTOEIC 500点未満の学生は、この2番組の聴取をお勧めしたい。なぜなら『英会話タイムトライアル』で基礎と応用の会話表現を学び、『ラジオ英会話』で英会話とともに初級文法を復習することを継続すれば、卒業時には英語検定準1級取得やTOEIC 700点超えも可能となるはずである。大学4年間の通学時もしくは通学前に、この2番組を継続聴取してくれれば、十分満足のいく英語力を身につけて卒業できる。

【お昼休みに45分】

12:15-12:25 『英会話タイムトライアル』

12:25-12:40 『ラジオ英会話』

12:40-12:55 『ラジオビジネス英語』

12:55-13:00 『エンジョイ・シンプル・イングリッシュ』

授業の合間のお昼休みに勉強するならば、この時間帯である。『ラジオビジネス英語』が他の番組に比べて若干難しいが、『英会話タイムトライアル』でスピーキングを、『ラジオビジネス英語』で英文法を、そして『エンジョイ・シンプル・イングリッシュ』でリスニング力を鍛える良い構成である。これらの番組を聴いて内容を確認したい場合には、学内メディアセンターに向かいNHKラジオ講座のテキストを確認すると良い。耳で理解した内容を目

で確認するという作業は、リスニング力の向上と文が文法的にどのように構成されているのかを確認する良い勉強方法である。

【大学から下校時に25分】

15:45-16:00 『ニュースで学ぶ「現代英語」』

16:20-16:25 『ボキャブライダー』

16:25-16:30 『エンジョイ・シンプル・イングリッシュ』

この時間帯は最難度の『ニュースで学ぶ「現代英語」』で始まり16時00分から16時20分に『気象通報』の放送を挟んだ後、比較的初心者向けの『ボキャブライダー』『エンジョイ・シンプル・イングリッシュ』と続く放送構成である。3番組を続けて生放送を聴取するにも、講座の難易度の組み合わせとしても難しい並びではあるが、この時間帯に大学で授業を終えて帰宅する学生やアルバイトに向かう学生には良い時間帯の放送かもしれない。

【週末にまとめて聴取】

土曜6:30-6:55, 12:15-12:40 『ボキャブライダー』(月曜から金曜の放送5回分)

土曜7:00-7:50 『英会話タイムトライアル』(5回分)

土曜9:05-9:30 日曜14:20-14:45, 21:30-21:55 『エンジョイ・シンプル・イングリッシュ』(5回分)

日曜16:30-17:45 『ラジオ英会話』(5回分)

日曜22:00-23:15 『ニュースで学ぶ「現代英語」』(5回分)

個人的には週末にまとめてNHKラジオ講座を聴くのはお薦めしない。毎日短い時間でも継続して外国語に触れることがNHKラジオ講座で学ぶ利点である。さらに、『ラジオ英会話』や『ニュースで学ぶ「現代英語」』の15分番組を連続5回聴いて75分間集中できるとは思えない。しかしながら、免許を取得し車を運転する学生や運動しながら聴取する学生には、このまとめて聴取はお薦めできる。特に『ボキャブライダー』や『エンジョイ・シンプル・イングリッシュ』の5分間番組を連続して聴き、作業するのもお薦めする。

NHKラジオ講座での言語学習を薦める理由は、このように授業がある学期中の通学時間だけでなく、授業がない長期休み中にも継続して学ぶためである。学期中にNHKラジオ講座の聴取習慣がつけば、休み中は自宅でゆっくりと机に向かい聴いて学ぶことができる。通学中にはできない英文を繰り返して声に出す練習は、自宅や移動中ならば周りを気にせずできる。このようにNHKラジオ講座を聴いて学んだインプットを口に出し、さらに可能であれば書いてみるアウトプットを繰り返すことで、同様の内容を反復しながらも螺旋階段のように徐々に上達することは間違いない。

聴いたことを口にするインプットとアウトプットの繰り返しと同様に、聴いた内容で不安な点は目で見て確認してほしい。愛知大学の学生はその点で恵まれている。本学厚生棟4階メディアセンターには、最新のものから刊行されたバックナンバーまでNHKラジオ講座テキストが英語だけでなく、他言語の番組のテキストも閲覧可能となっている。前述したように、通学中のNHKラジオ講座の番組内の内容で不安な点、例えばよく聞き取れなかった文をメディアセンターに向かい、その内容を見て確認して自分の弱点を補強して欲しい。この聴いたことを目で確認する学習は留学準備時にも有効である。インターネットで留学先のFMラジオ局を検索して視聴する。そして、留学先の地方新聞をインターネットで探して、ラジオで聴いた内容を英文で確認する。「聞く」技能を「読む」技能と関連付けて英語力を高めていこう。

6.4 英語以外の言語学習へのNHKラジオ講座の活用

これまでNHKラジオ講座でも英語学習への応用を中心に述べてきた。NHKラジオ講座は英語以外にも、ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語・イタリア語・韓国朝鮮語・ポルトガル語・アラビア語の講座⁶⁾が開設されている。大学生にとって、英語以外のこれら外国語は入学してから学ぶことが多い。そのため、英語ほどに目標言語に触れる機会は授業内に留まり、授業終了後の長期休暇中に学んだ内容を忘れて、また振り出しに戻ることが少なくない。英語だけでなく異なる言語を学ぶことで、様々な言語の感覚や文化に触れ、国際的な視野を持つ学生となって欲しい。その目的のために英語以外のNHKラジオ講座を利用することは有用である。

英語以外の他言語ラジオ講座の特徴は、初級編では4月から9月もしくは10月から翌年3月で講座を終了することである。英語は1年の放送期間で講座を開講しているが、他言語ラジオ講座は半年間で終了した後、再度全く知識がない初心者として受講できる。すなわち、各言語の初級として必要な内容が常に6ヶ月間の繰り返しで学ぶことができる。個人的な意見では、初級編の講座を2年間で計4回繰り返し聴取し、並行して週1回目標言語の対面授業を受ければ、各言語の検定3級が合格可能な中級者の実力を持つことが可能と確信している。在学中のうち2年間で費やすには十分な成果を得られる。

特に、1年生で未習言語を学ぶ学生には、他言語NHKラジオ講座を聴取して欲しい。目標言語を学び始めた4月から他言語NHKラジオ講座で学ぶことは薦めない。なぜなら、NHKラジオ講座の授業内容が大学での授業内容よりもかなり速く進むためである。その時点では焦らず、大学での授業に集中してほしい。NHKラジオ講座での勉強を薦めるのは、春学期終了後、夏休みに入ってからである。7月末から8月は春学期で学んだ内容よりも高度なことをNHKラジオ講座で扱うかもしれない。そこで諦めずに、聞き流す感じでも構わ

ないから NHK ラジオ講座を聴いて学ぶ習慣づくりに取り組もう。

本番は10月からの初級編が再度初めから開始される時期である。ここで大学にて秋学期の授業と並行しながら、NHK ラジオ講座で最初から学び直そう。これが良い復習となり、春学期に学んだ内容を思い出して学び直す良い機会となる。このように繰り返し復習しながら、モジュール式に螺旋階段のように地道に上達していくことが言語学習の王道である。可能であれば、NHK ラジオ講座テキストを購入し、授業内の書き取り問題や作文問題にも取り組もう。秋学期の授業が終わった後も NHK ラジオ講座で継続して学ぼう。1月に放送される内容は、春学期の7月には理解できなかったかもしれないが、この時期には大学で学んだ内容も含めて、十分理解できるレベルに上達している。大学の授業が無い冬休みの間、1月から3月はNHK ラジオ講座で学び、大学の学習内容を復習しよう。

愛知大学では1年生の未習言語必修後にも、各言語の応用クラスを2年次以降に受講できる。この応用クラスを対面で受講して、NHK ラジオ講座を継続して聴取して学んでもらえれば、2年後には履歴書に記すことができる外国語検定3級合格は可能である。

7. まとめ

本稿では、長期休暇後に大学生の語学力が低下する問題への対策として、学期期間中から継続してNHK ラジオ講座を活用し、休暇中にも続けて聴取する習慣づけを提示した。その薦めとして、NHK ラジオ英語講座の特徴と生活リズムに合わせた聴取方法などを解説した。大学での受講とNHK ラジオ講座の利用で学ぶ言語の技能は向上するはずである。語学力を上達させるには継続的な学習は欠かせない。その継続的な学習は大学卒業後も生涯学習の一環として続けられるだろう。一人でも多くの学生に語学学習を生涯継続できる趣味となることを強く望む。

注

- 1) 本稿では『NHK ラジオ講座』とは英語とそれ以外の外国語を含む語学講座を指し、『NHK 高校講座』と『NHK 文化セミナー』は含まない。語学学習に使用され、ラジオ NHK 第二放送もしくはインターネットやアプリで提供されるNHKが製作するラジオの語学講座を対象とする。
- 2) NHK ラジオ講座では『まいにちハングル講座』『ステップアップハングル講座』と韓国朝鮮語を示すのに「ハングル」と文字を指す語を用いている。その理由は、南(1994)と大村(1992)に詳しく述べられている。
- 3) 角元(2002)論文内ではテキスト評価を行った番組名を『英語会話』で統一している。1945年から1991年まで『英語会話』の題名で放送された番組は、1991年から2001年まで『英会話』

の名で、その後2008年からは『ラジオ英会話』の名で放送されている。

- 4) 宇治橋 (2022a, 2022b) のアンケート対象者は、調査会社のモニターによるインターネット調査とオンライングループインタビューに回答した人に加えて、NHK エデュケイションが運営する語学サイト「ゴガクル」サイトでの回答、および語学講座テキストの綴じ込みハガキかQRコードにアクセスして回答した人である (宇治橋 2022a: 14)。
- 5) 以下アンケート回答者数の割合を示した%後にある丸括弧内の数字は回答数を示す。
- 6) NHK ラジオ講座で開講されている英語以外の9言語、ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語・イタリア語・韓国朝鮮語・ポルトガル語・アラビア語、を本稿では「他言語」で総称する。

参考文献

- 新井利邦・佐藤一・宇佐美昇三 (1985) 「LL 設置高校に関する58年度全国調査結果」 *Language Laboratory* 22 (pp. 26-60)
- 荒川清秀 (1991) 「NHK ラジオ中国語講座を担当して」 *外語研紀要* 15 (pp. 33-47) 愛知大学外国語研究室
- 原由美子 (1995) 「語学講座番組はどのように利用されているか——テキストとじこみアンケート調査から」 *放送研究と調査* 45(1) (pp. 28-39)
- 樋口耕一 (2020) 『社会調査のための計量テキスト分析——内容分析の継承と発展を目指して 第2版』ナカニシヤ出版
- 平川洸 (2021) 『カムカムエヴリバディ平川唯一と「ラジオ英会話」の時代』NHK 出版
- 伊東武彦 (2000) 「中学校英語教育におけるメディア利用全国調査」 *Language Laboratory* 37 (pp. 163-178)
- 角元節子 (2002) 「NHK ラジオ『英会話』講座の利用実態に関する調査研究——放送番組を利用したよりよき指導方法を求めて」 *四国英語教育学会紀要* 22 (pp. 63-72)
- 南相瓊 (1994) 「NHK「ハングル講座」の成立過程にかんする研究ノート——日本人の韓国・朝鮮語学習にかんする歴史的研究 (その2)」 *金沢大学教養部論集* (pp. 27-111)
- 岡村三郎 (1989) 「ラジオによるドイツ語教育の1つの試み——NHK ラジオドイツ語講座入門編を担当して」 *千葉大学教養部研究報告 B-22* (pp. 205-215)
- 大村益夫 (1992) 「NHK『ハングル講座』が始まるまで」 *早稲田大学語学教育研究所三十周年記念論文集* (pp. 205-215)
- 柴田真一 (2016) 「シンプルで使える英語を身につける できる人はやっている! 一番人気『NHK ラジオ講座』の魅力とは?」 *The 21* 33(7) (pp. 88-90)
- 高垣友紀 (2013) 「NHK 講座ラジオ講座テキスト『基礎英語』の分析——評価を生かした効果的な活用方法」 *Immaculata* 17 (pp. 44-57)
- 投野由紀夫 (2013) 『CAN-DO リスト作成・活用英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』大修館書店
- 宇治橋祐之・小平さち子 (2018) 「アクティブ・ラーニング時代のメディア利用の可能性——2017年度『高校教師のメディア利用と意識に関する調査』から」 *放送研究と調査* 68(6) (pp. 48-77)
- 宇治橋祐之 (2021) 「ラジオ第2放送90年生涯学習波への広がり」とインターネット展開」 *放送研究*

と調査71(11) (pp. 54-83)

宇治橋祐之 (2022a) 「語学学習への関心とメディアの利用——2021年度「語学学習でのメディア利用に関する調査」から①」放送研究と調査72(4) (pp. 14-37)

宇治橋祐之 (2022b) 「語学学習への関心とメディアの利用——2021年度「語学学習でのメディア利用に関する調査」から②」放送研究と調査72(5) (pp. 30-56)

山田学 (1996) 「授業中の教材テープの位置づけおよび使用方法について——NHK ラジオ英語講座の構成を調べて」大阪教育大学附属高等学校池田校舎研究紀要28 (pp. 107-110)

山内豊 (1994) 「授業形態, ALT の協力, 教材の種類がLL教育に及ぼす効果——1993年度LL設置高校への全国調査に基づく分析」Language Laboratory 31 (pp. 135-158)